

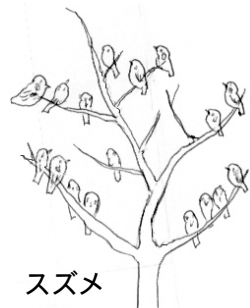
冬の多摩川散歩で鳥の観察

2/6、探鳥には少し遅い時間ですが、ようやく陽射しが暖かく感じられる10時頃、環境モニターのメンバーがみんなの広場から土手に降り、上流へ向かって歩きました。



タヒバリ

名前はヒバリでもセキレイの仲間。たしかに尾を上下にふりふり歩く姿はセキレイによく似ている。



スズメ

枯れ木では20数羽のスズメが休憩。以前は田んぼのスズメ退治にカラスを使ったこともあるという。カラスのいる所は安全でエサがあるだろうと、スズメが集まってくるので、田んぼにカラスを繋ぎ、そこへ舞い降りてくるスズメをかすみ網のような物で一網打尽にしたとか。



川面で見られたのはダイサギ(写真)・コサギ・アオサギ・カイツブリ・カンムリカイツブリ・カワウ・コガモ・ヒドリガモ・そしてオオバン



ツグミ

広々とした河川敷に2羽3羽と歩く姿が見られます。ちょこっと歩いてはスッと首をのばし、またちょこっと歩くという姿。戸部先生が子供の頃はなぜか「ばかっちょ」と呼んでいたらしい。



シジュウカラ

ツツピー、ツツピーという特徴のある声。くちばしも小さくいかにも可愛らしい。

明るい所を好むというホオジロだがこの日はヨシの茂みの中で発見。



ホオジロ

写真 総合出版 日本の鳥 300より

その他、この日はカワセミ・トビ・キジバト・ハクセキレイ・セグロセキレイ・ヒヨドリ・モズ・メジロ・カワラヒワ・ムクドリ・ハシブトガラス・コゲラ・ドバトの28種を確認

井の頭自然文化園 資料館1階 特設展示 鳥々色々

期間 2009年10月14日(水) ~2010年2月28日(日)

特設会場には「チョットコイ研究所」が設置されています。カラスやハトなど身近な鳥を研究する「ヒトと鳥の関係学」研究室、鳥の行動を研究する「鳥類行動学」研究室、鳥の羽などの美しい色を研究する「鳥類色彩学」研究室、鳥の孵卵器や育雛器などがある「鳥類飼育学」研究室など、それぞれ特徴のある研究室をめぐり、さまざまな角度から鳥について知ることができます。

私のおすすめ本

とりばん

とりのなん子 著 講談社刊

小鳥を中心に身の回りの自然が描かれためずらしい漫画。作者の住んでいるのは岩手県なのでアオゲラのボンちゃんなんて子が庭先に登場しますが、大半はヒヨやスズメ、シジュウカラといった調布の住宅地でも見られる小鳥たちの愉快的な生態。

先日我家でもシジュウカラの巣箱を戴き、庭に設置してみました。いっしょにいた方が「近所にはいないと思って巣箱を置くと必ず偵察に来るわよ。でもなかなか巣作りはしてくれないのよね。低い所に設置しても大丈夫らしいわ。」と言っていた通り、数日後には1羽のシジュウカラが巣箱を覗きにやって来た。漫画に出てくるシジュウカラは排水溝やひっくり返した植木鉢の中で子育てをしたそう。私も漫画にならって牛脂(シジュウカラの好物だそうです)を枝先にぶら下げてみた。さてどうなることか。(N.K)



調布の森を訪ねて

国分寺崖線の屋敷杜

市域の北西端から東端にかけて古い多摩川がつくった国分寺崖線と呼ばれる崖地が連なっている。この崖線沿いには崖地の樹林を背後に持つ昔ながらの屋敷地が残っている。武蔵野台地は、基層の太古の多摩川が運んだ砂利と、高く積もった火山灰(ローム土)により水を溜められない水利の悪い土地が大半をしめ、また冬の空っ風は人と作物にきびしい。この地で古くから人々が暮らしを営んできたのは、水が湧き、北西側に空っ風から家と表土を守る崖地が在り、そして防風林を作れるような限られた土地だった。国分寺崖線下の土地はその限られたもっとも幸福な場所の一つである。

また昭和期の都市化の波は屋敷前の水田や台地上の畑の多くを宅地に変えたが、この土地の優れた環境性能



わらぶき屋根の時代の深大寺元町三丁目崖線下の屋敷杜(想像)

や先代の暮らしの記憶をまだ多く持つ屋敷主の意志により、多くの屋敷地はほぼ昔の基本形が維持されている。屋敷裏の緑の連なりは、生き物たちのコリドール(回廊)として重要であり、

街にうるおいと安らぎをもたらす緑の景観の比類無き尊さは、言うまでもない。

これに加え、時代は、これらの屋敷地が私たちに未来の「暮らしと自然」「緑と家」のあり方等を示唆し、伝える文化歴史的資産としての働きや価値を認め高めることを求めている。当然これらの屋敷は民有地であり、その公共性や文化歴史的価値からの保全を目的とする公共的関与には限界があり、様々な注意深さが求められる。まずはこの貴重な資産を伝え守ってきた屋敷主の意志に対する尊敬に始まる対話から始めたらどうだろう。そんな対話が市内の各地の緑の屋敷杜の木陰で繰り広げられることを期待して今回は筆を置く。

(絵・文 小林冬樹)



ちょうふあちこち

前号でお伝えした深大寺北町 5 丁目の道路工事。ケヤキやシラカシの大木は出来る限り保存し片側の何本かを切り倒して拡張にあてるそうです。屋敷林の持ち主や近隣住民と話し合っただけで、その時代での選択なのかもしれませんが、やはり残念!ではあります。



花の履歴書

ヤブツバキ(藪椿) *Camellia japonica* L

ツバキ属 (*Camellia*) の分布はアジア東部から東南アジア (揚子江流域からインドシナ半島、西端はナパールの) の温暖で湿度の高い地域、いわゆる照葉樹林気候地帯を中心に 200 種以上の自生が知られている。その中心は中国で、日本はツバキ属の北限域に当たり、青森県の夏泊半島、秋田県の男鹿半島のヤブツバキ群落が「ツバキ自生北限地帯」として国の天然記念物に指定されている。

調布市の天然記念物に指定されたシロヤブツバキは、布田地区の旧品川道にあった地蔵尊脇に植えられ

ていたが、道路拡張に際して地蔵尊と一緒に移植され、株の半分は枯れてしまった。白花は自然界で稀に突然変異で生じ、珍しきこともあって、古い時代に地蔵尊の側に植えたものだ。当時このあたりでは、ムラサキの根を使った草木染めが行われており、ツバキを燃やした灰が媒染剤として使われた史実や地名(染地)が残っており、このあたりには椿が栽培されていたのかも知れない。

和名の「ツバキ」は厚葉樹(あつばき) 艶葉樹(つやばき) が訛ったものとされ、「椿」の字は春に花が咲く樹を表す国字である。日本人は、暗く長い冬の終わりを告げる真っ赤なツバキに特別な感情を抱き、ツバ

キの花を愛でてきたことは、栽培品種の数の多さや、ツバキの栽培が過熱し、何度も禁止令が出された史実からもうかがい知ることが出来る。

(絵・文 戸部英貞)



活動記録コーナー

◆入間・樹林の会



スギが多いシヤガの広場

12月20日 樹林地内を巡回し緑と公園課に依頼する伐採木の候補をあげました。斜面地や民家に近い太い杉数本、マテバシイ広場の斜面地のシラカシ等を検討しました。公園になって人の出入りが多くなり放置ごみが目立つようになってきたことと、まだまだ暗いとの感想があり、見通しのよい林にしていくことを確認しました。林内ではツバキの花がよく目立つようになり、めずらしくコゲラの姿を観察することができました。他にヒヨドリ、シジウカラ、オナガ、ジョウビタキ、メジロ、シロハラの鳴き声が聞けました。

1月17日 方形枠調査と依頼伐採木の決定をしました。光が入ることで雑木林の草本類が増えることを頭に置き、自分たちでも伐採できる木、行政に伐採依頼する木、要検討の木など、色をかえてテープを巻きました。その後、ツバキの花、マンリョウの実が目立つ樹林地で久しぶりに揃った13人が鍋パーティーを楽しみました。ヒヨドリ・メジロ・シジウカラ・ジョウビタキ・オナガ・ムクドリ・ウグイス・シロハラ・ハシブトカラスの鳴き声を聞き、気がつくとヤブタバコが粘っこく衣服にくっついていました。

(安部記)



年に1度のお楽しみ 鍋パーティ

◆若葉の森の会

12月13日(日)曇り 参加者5名
小木の伐採・落ち葉掃き

地域の方も協力をしていただき落ち葉溜めには落ち葉がいっぱいになりました。

12月24日(木)晴れ 参加者2名
小木の枝打ちと枝の片付け
土に埋められているごみの撤去

1月10日(日)晴れ 参加者9名
第二落ち葉溜めつくりのための竹の切りだし・小木の伐採及び片付け
事務報告及び意見交換、2月14日の小池先生への要望など。

参加者が多いと活動がはかどりません。高木が多いため、林床の日当たりはまだよくないです。集合写真を撮りました。

1月21日(木)晴れ 参加者2名
伐採した小木の片付け
草取り (住田)



方形枠の中は樹木の葉が落ち、判定が難しいものもありましたが、ムクノキの勢力が強く、コナラやシデは減少傾向でした。方形枠を設置した当初は、実生木の多さに驚きましたが、2年目以降はゆるやかな淘汰が進んできたようです。



1月9日(土)晴れ 参加者10名
メンバーの一人を中心に野草園横から東樹林にかけて鳥の観察を行い、ハシブトカラス、ヒヨドリ、ウグイス、ジョウビタキ、シジウカラ、ツグミ、キジバトを見ました。その後、今年の作業の安全を願い、大木根元に御神酒、水、米、塩をお供え。昼からは場所をキャンプ場に移し枯れ木の整理を兼ね、懇親会を行いました。

(活動報告より)



◆環境モニター

12月6日(土)晴れ

早春に行う「そぞろ歩き」のため深大寺北町辺りを下見。自宅庭の大きなマキが保存樹木になっているお宅や植木溜めのヤマモモ、細い道路沿いのケヤキ並木、広い畑など、のどかな風景が広がる地域ですが、新しい住宅も目立ちます。今のうちに見ておきたい風景です。(鍛冶)

3/6の「そぞろ歩き」

参加者募集中！(先着30名)

1月の活動はお休みでした。

◆カニ山の会

12月12日(土)晴れ 参加者8名
倒木の片付け作業、枝切り、シュロ抜き、同時に方形枠の調査も行いました。

倒木は玉切りし、林縁部保護のため下段の西端、上段北側に設置。また下段の東側隣接家屋の方より、サンショ、トウネズミモチ、大木のコナラの枝切りを依頼されましたがコナラだけは市へ依頼することに。

☆ 環境市民 エコ活動カレンダー & おしらせ ☆



“ 私からはじめるエコライフ PART ”



—ひろがる・つなげる、エコ活動—

2/28(日) たづくり 12F大会議場

1:00 受付開始 1:30 開会 展示 12:00~

調布市では市民・事業者・団体間の枠を超えた環境保全への取り組みの推進を図る為、関係団体間の交流イベントを開催します。お互いの活動を知り、つながるためのアイデアを共有しませんか。

プログラム

講演 「ひろがる・つなげる、エコ活動」

小野 紀之氏 NPO 地域パートナーシップ支援センター理事長

参加団体によるワークショップ

参加無料 終了後、懇親会を行います(500円)

主催・問合せ 調布市環境政策課 042-481-7086 (稲山)

企画・運営 ちょうふ環境市民会議

雑木林塾開催中!

第5回目にあたる1月26日は生態系の講座。座学後カニ山に行き、実際に冬越しをしている昆虫などを見てもらった。塾生からは日頃疑問に思っている昆虫のことなど雑談風に色々な質問が飛び出し、なごやかな雰囲気。



講座終了後の3時からは懇親会となり豚汁や焼き芋、その場でスモークした燻製などを食べながら懇談。塾生同士のつながりが今後の活動に結びつくことを期待!

《主催：調布市 企画運営：ちょうふ環境市民会議》

生き物環境東京フォーラム 調査報告会

J A 上伊那と生活クラブ東京が8年に亘り長野県飯島町で組合員と地域の方々による自然共生農場づくりに向け行ってきた生き物環境調査の報告をします。組合員が都内で行った興味深い調査の報告もあります。

日時：2月27日(土) 13:30~16:00

会場：生活クラブ館 地下スペース(小田急線経堂駅徒歩5分)

参加費：無料

2/1 今シーズン初めての雪らしい雪



数日後、つぼみのふくらんだコブシの下に可愛い雪だるま発見。いつまで生き残れるかな。

Schedule Schedule 全ての会でメンバー随時募集中! Schedule Schedule

カニ山の会

原則毎月第2土曜に深大寺自然広場東樹林の保全活動を行っています。参加希望の方は集合場所(野草園横)へ直接おいで下さい。

年会費500円+保険料

2/13(土) 10:00~12:00

/樹林の保全活動

3/13(土) 10:00~12:00

/樹林の保全活動

問合せ 環境政策課 042-481-7086

人間・樹林の会

原則毎月第3日曜に活動しています。参加希望の方は直接人間地域福祉センター前へおいで下さい。

2/21(日) 9:30~12:00

/樹林の保全活動

3/21(日) 9:30~12:00

/樹林の保全活動

問合せ 環境政策課 042-481-7086

または緑と公園課 042-481-7083

若葉の森の会

原則毎月第2日曜に若葉町第3緑地で保全活動を行っています。参加希望の方は直接若葉町3丁目第3緑地へ。

2/14(日) 9:30~12:00

上記以外の日程もありますので詳細は

緑と公園課 481-7083へ

※各樹林地の保全活動は、調布市との協働でおこなっています。詳細については、記載の担当課にお問合せ下さい。

環境モニター

3/6(土) 9:30~12:00

/'そぞろ歩き' 早春の深大寺北町あたり、古くからの屋敷林などを見ながら歩きます。参加者募集中!

問合せ：環境政策課 042-481-7086

野川と八ヶの森の会

2/14(土) 11:00 せたがやトラストシアタールーム /映写会

3/14(土) 10:00 かわせみ館

/野川清掃

問合せ：070-5566-3437 (大山)

<http://www.ne.jp/asahi/nogawa/hake/>

入会方法：HPのメールから、または

イベント等随時(入会金2000円)

会員外参加者は参加費200円

【編集後記】 2月の多摩川はさむい!

でもすっきり晴れわたった広い空の下でのんびり野鳥の観察は最高にいい気分。今年は河口付近でシラスアユというアユの稚魚も見られているという。ちょうふに多摩川があって良かった~!!(Nao..K)

1月半は風邪にやられて、プームのショウガシロップをひとピン開けてしまった。日中のお風呂は効果があった。春よ来い(江刺)

【会員・応援を募集しています】

個人会員 年500円、

賛助会員 一口1000円 あなたの

“ちょこっとエコ応援”待ってます

市民発 ちょうふの自然だより

この「自然だより」は2009.3.15に設立された「ちょうふ環境市民会議」が隔月で編集発行、身近な自然情報を発信しています。自然に関する情報や写真など、いつでもお寄せ下さい。現在、調布市環境政策課、市内各図書館、地域福祉センター、郷土博物館、

実篤記念館、あくろす2F・3Fの情報コーナー、たづくりみんなの広場、曼珠園さん、みさと屋さん、などに置いてあります。

-----ホームページにカラー版を掲載。-----

ちょうふ環境市民会議→自然だより でご覧になれます。

発行：ちょうふ環境市民会議 <連絡先> <http://chofu-kankyo-shimin.org/>